

室内環境による温冷感調査と改善策の検討（第二報 改善策の導入効果）

医療法人社団 三思会 東邦病院 腎臓透析センター

○松村昌樹 岡部洋子 吉田弘明

坂本龍彦 松本孝之 植木嘉衛

【目的】

透析治療中の患者から冷暖房のクレームを受けることが多く、空調が患者のストレスになっていることから、改善策をまとめた。検討した改善策を新病棟に導入し、透析室の室内環境測定調査とアンケート調査を実施し、その効果について検証と考察を行った。

【方法】

室内環境の測定調査ならびに患者・スタッフへのアンケート調査による満足度調査

【結果】

室内環境の実測調査により、計画どおり場所による温度ムラや嫌な気流感および窓側の環境の改善が確認できた。アンケート調査からも冷暖房の悩みが減っており、室内環境が改善した事が裏付けられた。ただし、患者に合わせるとスタッフが暑いという状況は、改善はできているものの依然として課題となった。

【考察】

患者の治療エリアに風を感じない放射空調を、スタッフステーションに対流空調を導入したことにより、期待通りの改善効果が確認できた。しかし、スタッフが患者エリアで働いている際にまだ暑いと感じる傾向にあり、着衣量の改善や治療エリア通路部の環境改善などが有効であると考えられる。